

次期産業廃棄物最終処分場整備について

1 経緯

- (1) 奥州市江刺区の「いわてクリーンセンター」の産業廃棄物最終処分場が、東日本大震災津波に起因する災害廃棄物の埋め立て等により、震災前より4年ほど早い平成33年中に埋立終了となる見込みとなり、次期最終処分場の整備が急務となった。
- (2) 平成25年3月、次期処分場整備基本方針を策定した。
- (3) 平成25年6月、外部有識者による整備候補地選定委員会を設置し、候補地選定手続きを開始した。
- (4) 平成25年9月、第2回委員会において1次抽出作業の確認を行い115カ所(26市町村)の調査対象地が選定された。
- (5) 平成25年12月、第3回委員会において2次選定作業の結果について評価を行い39箇所(15市町村)に調査対象地が絞り込まれた。

2 次期処分場の必要性

本県産業の振興、産業廃棄物の適正処理及び災害廃棄物などの処理困難な廃棄物の処理体制の確立の観点から必要不可欠な施設であり、いわてクリーンセンターに設置している既存施設の埋立終了までに整備できなければ、これらへの支障が懸念される。

3 市町村との連携等

- (1) 候補地選定への着手に先立ち、県内全ての市町村長に対し処分場の現状と候補地選定方法等を直接説明した。
- (2) 市町村担当部課長会議を定期的で開催し情報共有を図るなど、様々な機会を通じて意見、要望等を伺いながら選定作業を進めている。
- (3) 調査対象地の2次選定作業にあたっては、調査対象地周辺の状況や開発計画の有無等の情報提供に御協力をいただいた。

4 今後の取り組み等

- (1) さらに数次の評価を実施し、該当する市町村からの意見等も踏まえ、数カ所の整備候補地を選定したい。
- (2) 該当する市町村と連携し、地域住民との合意形成を図りながら平成26年度中を目途に最終候補地を決定したい。
- (3) 候補地選定にあたっては、県と市町村の連携が益々重要になっていくと考えており、引き続き特段の御理解、御協力をお願いしたい。